

国際交流事業〈文部科学省委託事業〉

「日独青少年指導者セミナーA2」

1. 趣旨

日本とドイツの青少年教育の現状や取り組みを理解し、両国の指導者が意見交換することを通して青少年指導者の資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和元年5月30日(木)～6月4日(火)

(2) 参加者

①参加対象 ドイツ連邦共和国在住で、青少年教育行政、青少年団体等で指導にあたる専門家でドイツ政府・ドイツ側実施機関であるドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関・ベルリン日独センターにより選出された者。

②参加人数 11名

③参加者の内訳

ドイツ団員8名、団長1名、通訳1名、本部担当1名

3. 企画運営のポイント

○A2団のテーマは「子どもと若者の貧困－課題と解決に向けた取り組み－」である。群馬県内の子どもの貧困について、県による施策や状況、課題等を総合的に理解できるようにするために、訪問先を設定する。また、東京プログラムを補完するような、地域での取り組みを中心とした訪問場所を設定する。

○日本文化体験の機会として、世界遺産の日光東照宮を見学先として設定する。

4. 日程

	午前	午後	夜
5月 30日 (木)	・東京～高崎到着	・児童養護施設 希望館訪問 ・群馬県庁子ども未来部子育て・ 青少年課訪問	・団ミーティング
31日 (金)	・群馬県中央児童相談所訪問	・フリースペースアリスの広場 訪問 ・ホームステイ開始	・ホームステイ
6月 1日 (土)	・終日ホームステイ		
2日 (日)	・ホームステイ終了	・福豚の里とんとん広場(ざわざ わ森)にてお別れパーティ ・赤城青少年交流の家の説明	・団ミーティング
3日 (月)	・日光東照宮見学		・団ミーティング
4日 (火)	・愛育乳児園訪問	・高崎駅発～東京	

5. 主な活動内容



「児童養護施設 希望館」



「群馬県子育て・青少年課」



「フリースペースアリスの広場」



「ホストファミリーとの懇親会」



「日光東照宮」



「愛育乳児園」

6. 成果と課題

(1) 参加者（ドイツ団員）の声

- ・日独の共通点として、育った家庭環境が将来に大きな影響を及ぼしていることが分かった。貧困世帯の大半がひとり親家庭であることが分かった。
- ・行政と民間支援団体が連携して課題に対処していることは日本とドイツの共通点であることが分かった。
- ・社会福祉と青少年教育職の専門職の度合いが日本とドイツで違うことが分かった。
- ・民間支援団体に交付される補助金制度がドイツと日本で大きく違っていることが分かった。
- ・入所型支援施設では、ドイツでは兄妹で一緒の場所で過ごさせるのに対し、日本では男女を分離していて、考え方に違いがあることが分かった。
- ・群馬県では、部局を横断した子どもの貧困対策推進会議と第三者委員会で施策の進捗状況などをチェックしていることを学ぶことができた。
- ・不登校の子どもであっても学歴を積むために復学にチャレンジできる仕組みがあることを学ぶことができた。

(2) 成果

- ・群馬県の子供の貧困についての状況や県の施策を聞いたり、児童養護施設や乳児園、NPO法人など具体的に活動している施設を訪問したりすることができたので、総合的に貧困に関わる課題や解決に向けた取り組みを学ぶことのできる機会を設定することができた。
- ・ホストファミリーの募集を前橋市国際交流協会に依頼したので、参加希望が集まり、スムーズに決定することができた。

(3) 課題

- ・訪問先施設での研修において時間を効率的に使うために、訪問先と質問事項への対応や進行方法、配分時間などを事前に打ち合わせしておくことが必要である。
- ・参加したドイツ団員の食べ物に関するアレルギー情報を共有することができず、食事の直前になって情報を得た。また、その情報を担当者間でも共有できなかった。情報を担当者間で必ず共有することが必要である。